

各学科、専攻の教育研究上の目的

R8. 7. 13改正

高崎健康福祉大学

本学は、教育基本法および学校教育法に従い、自利利他の精神のもとに、人々の健康と福祉および社会の発展に貢献する有為な人材を育成するために広く豊かな教養と各学科の専門知識・技術を深く教授し、併せて快適な人間生活の方策を攻究する。

各学科の教育研究上の目的は以下のとおり。

健康福祉学部

医療情報学科

健康・医療に関する専門知識及び情報技術に関する先進的知識と実践的スキルを教授し、健康・医療分野の情報化を担う人材を育成することを、学士課程での研究教育上の目的とする。

社会福祉学科

社会福祉に関する専門的知識と実践的技能を兼ね備えた人材を育成するための効果的な教育を実施し、社会福祉分野における独創的で特色ある研究を行うことを目的とする。

健康栄養学科

管理栄養士に求められる知識と技術を修得し、医療・保健・福祉・教育分野の発展に貢献できる人材を育成するために、広範な学問を授ける教育と高度な専門研究を展開することを目的とする。

薬学部

薬学科

薬の専門家にふさわしい資質・能力を有して創薬・医療の現場や地域社会で活躍できる薬剤師を養成するための教育と、薬学の進歩に貢献できる基礎・応用・臨床薬学の研究を行うことを目的とする。

保健医療学部

看護学科

看護の専門的知識の構築と技術の開発につながる研究活動を展開し、豊かな人間性に裏打ちされた倫理的判断力・実践能力・国際的視野を兼ね備えた看護専門職者を養成することを目的とする。

理学療法学科

理学療法の専門的知識・技術を研究し、豊かな人間性に裏打ちされた倫理的判断力・実践能力・国際的視野を兼ね備えた、高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士になるよう教育することを目的とする。

人間発達学部

子ども教育学科

本学科は次世代を創る子どもたちの健全な育成に必要な質の高い知識や技術を学生に教育することを目指し、現代的課題に対応する教育者・保育者が必要とする高度で実践的な専門性の研究を行う事を目的とする。

心理学科

あらゆる生涯発達段階にある心理社会的課題を抱える個人や、そのような人々が暮らす地域に対して、心理支援を通して貢献できる人材を育成すること、臨床心理学の5分野（医療、教育、福祉、司法、産業）とその基盤である広義の基礎心理学についての教育研究に取り組むことにより、「“生きる”を支える心理学教育」を実現することを目的とする。

農学部

生物生産学科

食と農の分野から生命・健康・環境を支えるために必要な専門知識と技能を身に付け、グローバルな視野の下、食と農の様々な問題を発見し、科学的・論理的に情報を分析することを通じて、問題解決に向けた提案ができることを学士課程での教育研究上の目的とする。

高崎健康福祉大学大学院

本大学院は、学部における広い教養並びに専門的教育の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、さらに進んで研究指導能力を養い、もって人類の健康と福祉の増進に貢献することを目的とする。

各専攻の人材養成等に係る目的は以下のとおり。

健康福祉学研究科

医療福祉情報学専攻修士課程

健康・医療・福祉に関する該博な知識と高度な情報通信技術をもって、健康・医療・福祉分野の情報化を推進することのできる専門的職業人、および医療保健福祉に関わる情報学の教育・研究者を養成することを目的とする。

保健福祉学専攻博士前期課程

健康・医療・福祉に関する該博な知識と対人援助技術をもって、健康・医療と福祉分野を統合した協働的な保健福祉的援助を実践することのできる専門的職業人、および生物・心理・社会的などの多角的視点を持って医療保健福祉に関わることのできる教育・研究者を養成することを目的とする。

食品栄養学専攻博士前期課程

食品栄養に関する該博な知識と高度な研究技術をもって、食を通しての人間の健康保持や生活習慣病の予防に貢献することのできる専門的職業人、および先端的生命科学とバイオテクノロジーに基づき食品研究を行う教育・研究者を養成する。

保健福祉学専攻博士後期課程

健康・医療・福祉に関する先端的研究や情報技術開発研究を自立して行うとともにそれらの分野の専門的人材の育成を担当することのできる教育・研究者、および地域社会のニーズを的確に把握して保健福祉事業を企画・立案し、行政や民間機関の専門職を指導する能力をもつ高度専門職業人を養成することを目的とする。

食品栄養学専攻博士後期課程

食を通しての人間の健康維持や生活習慣病の予防に関する研究を自立して行うとともにそれらの分野の専門的人材の育成を担当することのできる教育・研究者、および食と健康に関わる高度な専門的業務に携わるために必要な研究開発能力と行政や民間機関の専門職を指導する能力をもつ高度専門職業人を養成することを目的とする。

薬学研究科

薬学専攻博士課程

臨床現場の薬剤師と科学者という2つの着眼点を持ち優れた研究能力を身につけて高い問題解決能力を持つ薬剤師、あるいは医療に高い関心を持つ研究者としてチーム医療のメンバーとして時にはリーダーとして医療体制を提案でき後継薬剤師は元より他のコメディカル専門職の未来のあるべき姿を考えられる医療人の両方の特徴を併せ持つ人材を養成することを目的とする。

保健医療学研究科

看護学専攻修士課程 看護学分野

●他の医療専門職者と連携したチーム医療の中心的存在として活躍できる高度実践看護専門職者の育成

患者・家族の複雑な健康問題の解決・QOLの向上を実現するために、理論と実践を統合し、先端的専門知識と技術を高め、他の専門職と連携したチーム医療の中心的役割を担い、また、地域の保健医療に貢献できる人材を育成する。

●保健医療の課題を解決するためのケアシステムの構築や人材育成を推進するリーダーとしての役割を担える看護管理者の育成

対象の特徴と保健医療の質の向上における課題を踏まえて、対象の自立やQOLの向上に向けた地域包括ケアシステムの構築、チーム医療を推進するための人材育成プログラムの開発や人材育成・管理システムの構築などの活動を担える人材を育成する。

●看護学教育・研究に指導的能力を有する人材の育成

大学における効果的な看護専門職教育ができる人材を育成するとともに、看護学の発展に貢献できる研究能力を備えた人材を育成する。

看護学専攻修士課程 助産学分野

<助産師養成領域>

●自律的・主体的に助産活動が展開できる専門的知識と技術を兼ね備えた助産師の育成

高度実践助産師を目指して、助産実践における基礎能力と助産実践における研究を推進する基礎的能力を身に付けた助産師を育成する。

●現在の周産期医療・助産の質の向上を推進する高度実践助産師の育成
エビデンスに基づいたアセスメントとケアを自律して実践し、実践上の課題をエビデンスを活用して解決する能力を持った高度実践助産師を育成する。

<助産実践開発科学領域>

●現在の周産期医療・助産の質の向上を推進する高度実践助産師の育成
少子化社会において女性が安心して妊娠・出産・育児ができるよう支援を強化し、助産活動の専門性の拡大を推進できる高度実践助産師を育成する。

●助産学教育・研究に指導的能力を有する人材の育成

大学における効果的な保健医療専門職教育ができる人材を育成するとともに、助産学の発展に貢献できる研究能力を備えた人材を育成する。

理学療法学専攻博士前期課程

●予防理学療法学を推進していくジェネラリストとしての理学療法士の育成

人々の健康寿命の延伸を目指し、疾病予防・障害予防の視点をもって健康教育や介護予防を推進し、豊かな地域生活の創出を推進しながら予防理学療法学を発展させるリーダーとしての役割を担える人材を育てる。

●地域リハビリテーションを担うリーダーとしての理学療法士の能力の開発

社会の変化に対応した保健・医療の質の向上を目指し、保健・医療の課題を解決するためのケアシステムの構築や人材育成を推進するリーダーとしての役割を担える人材を育てる。

●高度な専門知識・技術をもつスペシャリストとしての理学療法学指導者の育成

先端的専門知識と技術を基盤として、エビデンスの構築および新たな理学療法技術の開発に取り組める人材を育てる。

人々の自立や QOL の向上を目指し、理学療法実践の課題を解決するために先端的知識と技術を兼ね備え、チーム医療の中心的存在として活躍できる人材を育てる。

●教育・研究能力の開発

大学における効果的な理学療法専門職者教育ができ、理学療法学の発展に貢献する研究を推進できる教育・研究者を育てる。

理学療法学専攻博士後期課程

□ ●研究に関する知識・スキルを持ち高い倫理性を備えた人材

実社会において保健医療に関わる諸問題に対応する高度専門職業人、開発研究や高度な学問的研究に関わる研究者として活躍することが期待される。本専攻博士後期課程では、そうした人材が備えるべき専門知識と技能を修得し、最先端の学問成果を駆使して問題解決に貢献する能力、新たな知見を得て、その成果を世界に発信するためのスキル（論文執筆能力、プレゼンテーション能力、討論の能力等）を有する人材を養成する。また、臨床にあっては患者安全、そして研究倫理の理解と遵守などノンテクニカルスキルの育成はリーダーとしての資質として重要なものと位置付ける。

●保健・医療に関わる学術及び臨床教育の発展に貢献する人材

保健医療に関わる諸課題は近年ますます多様化・複雑化・深刻化しており、従来の学問成果のみでは十分に対応できなくなりつつある。このような社会情勢

の中、保健・医療・福祉における新たな学問領域を切り開く専門性の高い人材は世界的に希求されており、本専攻では学際的で高度な専門教育と研究指導により、新たな時代の保健医療福祉に関わる学術領域の発展及び教育に貢献できる人材を養成する。

●保健・医療・福祉分野のイノベーションに貢献できる人材

これまでに経験のない高齢化と人口減少が進むわが国は、保健医療分野にとって厳しい環境にあるため、多様化する現代社会の保健医療の課題に柔軟かつ創造的に対応する能力を有する人材が求められている。そのため、本専攻では幅広い専門知識を基盤に情報収集力、論理的思考力、課題設定能力、企画力及び実行力を備え、保健・医療・福祉におけるイノベーションに貢献できる人材を養成する。

●ローカルとグローバルの両方の視野から問題解決できる人材

近年、経済・社会のグローバル化が急速に進行し、そこで活躍するためには国際的な幅広い視野を持つ必要がある。多くの国がかかえる保健・福祉の課題は共通するものがあり、その対策は国、地域によって多岐にわたる。わが国で応用できるローカルな対策を考える上での情報は、グローバルな視点から得られる。したがって、「国際的視野を踏まえてローカルに行動する」こと、あるいは「ローカルの特性を踏まえて国際的に行動する」ことが今後ますます重要になる。本専攻では保健医療に関わる国内外の諸問題の解決に、グローバルとローカルの双方の視点を持って国際的に活躍できる人材、それを通じた地域活性化の実現にリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

農学研究科

生物生産学専攻博士前期課程

博士前期課程においては、食と農に関わる諸問題を多様な観点から捉え、その解決に専門的かつ学際的なアプローチを駆使して取り組むことのできる人材の養成を目的とする。より具体的には、高度な専門的知識とスキルを身につけ食と農の問題の解決ための国際的な活躍、食と農に関わる様々な企業・公共団体ならびに農業関連団体での活躍、あるいは地域社会の活性化への貢献など、実社会において食と農の高い専門知識や能力が求められる職務を遂行する人材を養成する。加えて、さらに高度な研究に取り組むために博士後期課程へ進学し、より先端的な研究を志す人材を養成する。そして、それらのいずれにおいても課題解決に寄与するのみならず、リーダーシップを発揮して主体的に取り組む人材の養成を目指す。

生物生産学専攻博士後期課程

博士後期課程においては、博士前期課程の学修で身に付けた学識と研究能力、あるいは実務で得た知識・技能・経験を基盤とする。そのうえで、研究者として国内外の大学や公的研究機関で、食と農に関わる国際的な水準の創造的研究を行うことで学問・科学の発展に貢献できる人材、民間企業等の研究部門等で活躍し、農業および食品産業の振興・発展や人類の健康と幸福の増進に貢献する人材、自然科学及び社会科学の両側面から食と農を中心とした地域活性化に資する研究や実践に取り組むことのできる人材を養成する。そして、それらいずれにおいても食と農に関わる諸課題の解決に必要となる新奇で独創的な知見や技法を発見・開発することのできる人材の養成を目指す。